



耕作する人もない広い田圃
(通称 けじつ田)

機会をうかがっていた。

ある年の村祭りの夜、岡部一族が酒に酔い、寝しずまるのを待って、その館に一斉に火を放ち、一族皆殺しを計り、ついにその目的をとげた。しかし、火は勢い余って岡部館に止まらず、その下手にあつた八坦部落を総なめにしてしまった。いかにうらみ重なる悪徳非情の一族であるとはいえど、自ら仕掛けた殺りくの罪のおそろしさにたえかねた住民は、以来、父祖の地を離れ、泉田方面や古戸方面に移り、またある人は現在の矢田野部落付近に移り住み、部落としての構成は一時消滅したかたちとなつてしまつた。

川城主二階堂氏の二男（または三男ともいう）が、部落の中央に館を築き、矢田野安房守を名乗り、矢田野部落を統治する事になり、現在の矢田野部落が確立したという。

その火攻めの事件以来、岡部の屋敷跡には、罪のおそれから近寄るなどの言い伝えが、やがて近寄れば、たたりがあるというように変化し、現在も伝えられている。

（話者 熊田孝悌）